

大阪天保山
Young Asian Artists in Japan

作品リスト



NO.01

GRAND BOUQUET

BIBI LEI(ビビ・レイ)

《Grand Bouquet》において、ビビ・レイは花束を、単なる装飾ではなく、感情を宿した存在たちが集う輝かしい場へと昇華させています。花々は静かに息づき、深い感情を湛えながらキャンバスいっぱいに広がります。

鮮やかなピンク、エレクトリックブルー、柔らかなイエロー、そして瑞々しいグリーンが響き合い、大きく咲き誇る花々が画面を満たします。それぞれの花卉は、色彩の中に優しくほどける秘密のように重なり合い、祝祭的でありながら親密な空間を生み出しています。花々の間からそっと現れるのは、レイの象徴的な大きな瞳の少女たち。宇宙のように奥行きをたたえた瞳と、小さなハート形の唇を持つ彼女たちは、この花の聖域の内側から世界を静かに見つめているかのようです。

花々は「動いている」というよりも、確かな存在感を放っているように感じられます。厚く重ねられた絵具は渦を描きながら立体的なふくらみを生み、それぞれの花に感情の重みと温度を与えています。そのスパイラルは記憶の雲や感情のほとばしりのようでもあり、即興的で誠実な筆致がそのまま画面に刻まれています。画面下部では、虹色の絵具が静かに滴り落ち、上部の高揚感とは対照的な、率直で繊細な側面を示しています。それらの滴りは、あふれ出た感情の痕跡のようにも見えます。

中央で束ねられた鮮やかなグリーンの茎は、画面全体をひとつに結びつける鼓動のような存在です。この花束は単なるアレンジメントではなく、想像力や感情、内なる自己がともに咲き誇る集合体となっています。

《Grand Bouquet》は、色彩に包まれたアイデンティティ、無垢さと強さが共存する世界、そして装飾を超えた心からの美しさを私たちに提示しています。

キャンバスにアクリル 1940×1120mm

NO.02

静海の臨界

一書

静かな表層の下に揺らぐ気配
深層にひそむ均衡のゆらぎ

雲肌麻紙、墨、岩絵具

1303×1620mm





NO.03

閉塞成冬

伊吹 美郁

日常生活で空を見上げると良い気分転換になることから、空を題材に選びました。寒空の雲の様子を意識して描きました。

麻紙、水干絵具

1120×1450mm



NO.04

虹蔵不見

伊吹 美郁

掛け軸のスタイルからヒントを得て縦長の構図に挑戦しました。

麻紙、膠彩

1620×1303mm

NO.05

春日遅々

王夢(WANG MENG)

春の日差しに照らされた松の木が、
地面に落とす影を描いた作品です。

パネル、雲肌麻紙、岩絵具、金泥

1700×2200mm



NO.06

BORDER 25.30

菊地 虹

抽象のなかで何かを描くこと。絵の具が絵の具でなくなる瞬間。さまざまなあわいのなかで、絵画の在り方を模索している。

キャンバス、アクリル絵具

1120×1455mm



NO.07

BORDER 25.31

菊地 虹

抽象のなかで何かを描くこと。絵の具が絵の具でなくなる瞬間。さまざまなあわいのなかで、絵画の在り方を模索している。

キャンバス、アクリル絵具

1120×1455mm



NO.08

花に宿る祝福

杜 依穎(DU YIYING)

本作は中国・福建省泉州に伝わる簪花文化から着想を得て制作した。簪花は幸福や繁栄への願いが込められた吉祥の象徴である。花冠を通して、伝統に宿る温かさと生命の気配を表現し、未来への希望と、自分らしく輝くことへの願いを託した。花々の重なりと柔らかな色彩は、静かで温もりのある空間を生み出している。

紙本着色、岩絵具、金箔

1000×1000mm



NO.09

虎御前

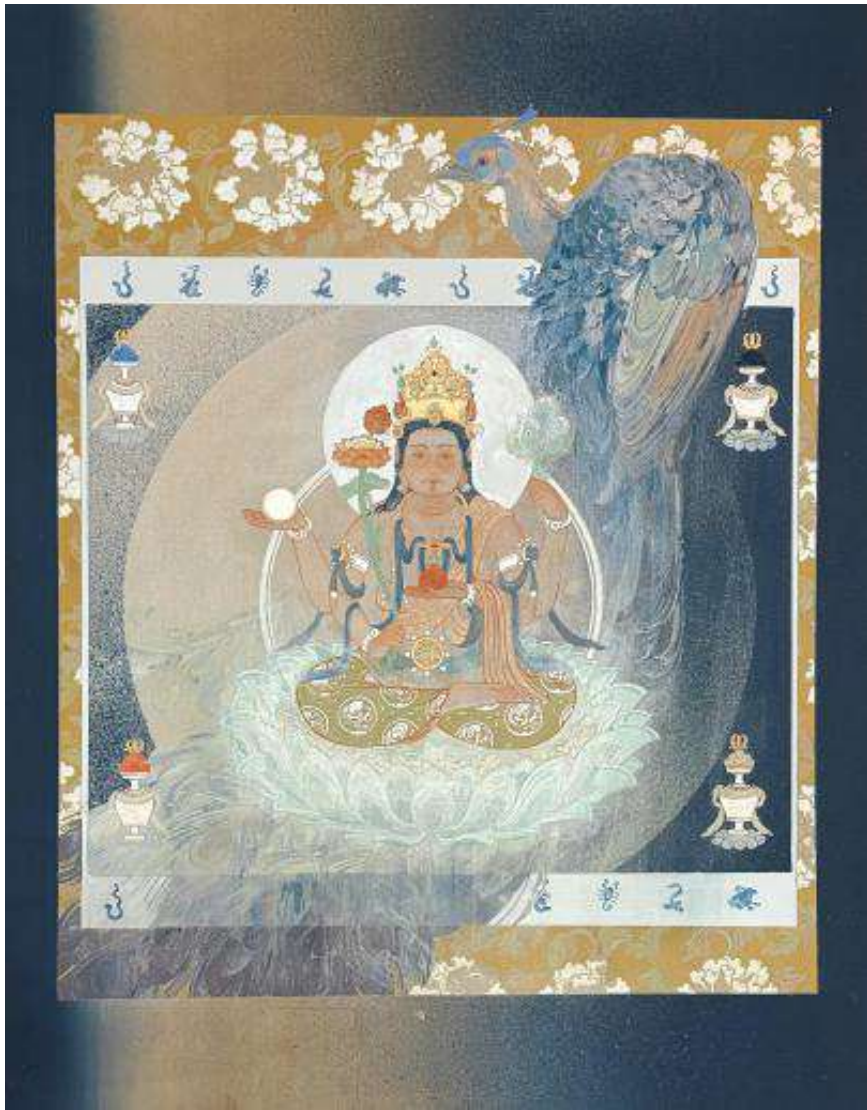
杜 依欣(Toikin)

本作は、天井画における守護と鎮宅の役割に着目し、白虎という神獣をモチーフに制作したものである。中国の藻井に見られる星宿と神獣の関係性を参照し、空間を見守る存在としての象徴性を表現している。

天竺綿布・箔・岩絵具

1000×1000mm





NO.10

孔雀明王菩薩

西陳

孔雀明王は、仏教密教において重要な信仰対象であり、災厄を払い、邪気を鎮める力を持つとされています。人々を守護する神秘的な存在として表現しました。

天竺綿布・箔・岩絵具

1167×910mm



NO.11

キャッチ

ネイネイ

時代と場所を超えて現れる「東京少女」。浮世絵・役者絵の象徴性を現代的に再構築する。

「東京少女」は伝承と革新を示し、過去・現在・未来をつなぐ希望の記号である。

「キャッチ」は偶然性と機会、試行錯誤の中で挑戦し続ける意志を表している。

アクリル絵具、キャンバス、パネル、銀箔

910×727mm

NO.12

引っ張る

ネイネイ

交錯する二つの人物像は、互いに引き合う存在関係を暗示している。手に絡む線は目に見えないつながりや作用を示し、個と個のあいだに潜む緊張と均衡を可視化する。

背景に重なるアルミ箔とスプレーは、グラフィティと水墨画に通じる即興性と余白性を同時に孕む。

「引っ張る」は、見えない関係に導かれ、支え合いながら前へ進もうとする意志を示している。

アクリル絵具、キャンバス、パネル、銀箔

910×727mm





NO.13

My Diary 2025 I

平野 えり

死生観を制作のテーマに、描きはじめてから作品の完成形を想定せず、日々その時その瞬間の思いを無意識の線に重ね“今この時・この瞬間を刻む”ということをテーマに作品制作を行っています。

ミクストメディア、紙、パネル

1644×1964mm

NO.14

My Diary 2025 II

平野 えり

死生観を制作のテーマに、描きはじめから作品の完成形を想定せず、日々その時その瞬間の思いを無意識の線に重ね“今この時・この瞬間を刻む”ということをテーマに作品制作を行っています。

ミクストメディア、紙、パネル

1644×1964mm





NO.15

Being -存在-

平野 えり

死生観を制作のテーマに、描きはじめから作品の完成形を想定せず、日々その時その瞬間の思いを無意識の線に重ね“今この時・この瞬間を刻む”ということをテーマに作品制作を行っています。

ミクストメディア、紙、パネル

1980×1010mm



NO.16

意志

藤木 芹圭

自宅で飼育している金魚をモチーフにして描きました。一匹の金魚を大きく描写する事で、個としての生命が内包する美しさと力強さを表現しています。

木製パネル、岩絵具、泥絵具、膠、雲母、麻紙

1303×1620mm

NO.17

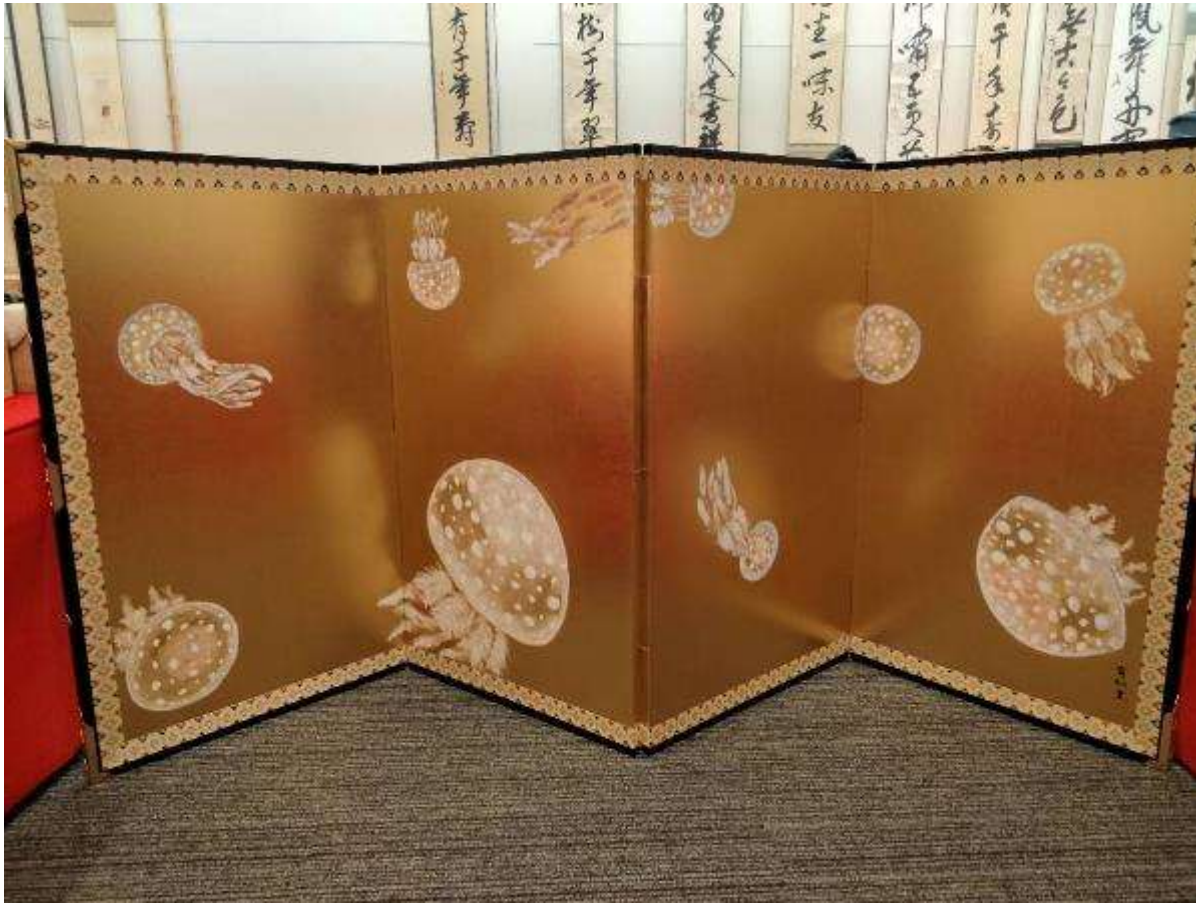
水母図屏風

前田 友加里

海の中で浮遊するクラゲの高貴さを金箔との対比で示した。本展示場所が海に面していることもあり、海中の美を模索した作品でもある。

紙本に金箔、岩絵具、膠、墨

700×1660mm





NO.18

冷寂

山中 翔

茨城県取手市内の農地に雪が積もった時の取材をもとに制作しました。どんよりと暗い地平線付近の空と、真っ白な雪原の対比が美しいと感じました。

紙本彩色

1120×1455mm



NO.19

叢(くさむら)

湯浅 泰将

琵琶湖に生育する葦の穂を叢の
中に灯る光のように表現しました。

紙本彩色

1167×910mm